

別添資料目次

資料 1. 大学院教育に関するアンケート(学部3年生)

資料 2. 大学院教育に関するアンケート(前期課程学生)

資料 3. 大学院教育に関するアンケート(社会人)

資料 4. 企業管理職等の求める人材(自由記述全件)

大学院教育に関するアンケート

学部3年生

*必須

東北大学大学院農学研究科では、現在、教育研究組織の再編を検討しています。学部3年生のあなたの大学院教育や進学意識について、意見を伺い、今後の計画策定に生かしていきたいと考えています。協力はあくまで任意です。回答は匿名のまま統計処理しますので、あなた個人に迷惑がかかることはありません。協力をお願いします。

2020年9月 農学研究科長

1. 問1 あなたが所属しているコースはどこですか。あてはまる選択肢を1つだけ選んでください。*

1つだけマークしてください。

- 1. 植物生命科学コース
- 2. 資源環境経済学コース
- 3. 応用動物科学コース
- 4. 海洋生物科学コース
- 5. 生物化学コース
- 6. 生命化学コース

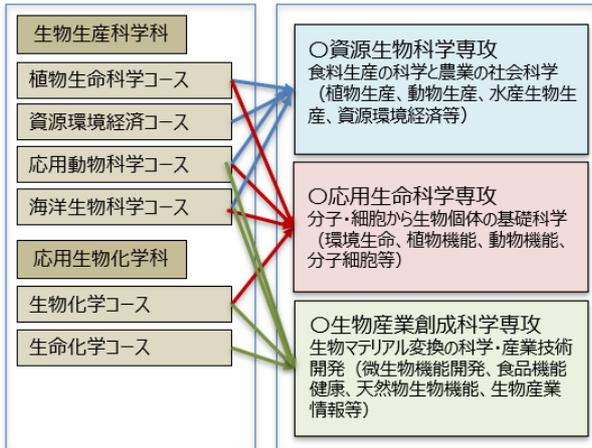
現在、東北大学大学院農学研究科では、従来の3専攻から2専攻へ再編することを計画しています。図を参照して、各専攻への進学について、あてはまる数字を回答してください。

組織再編後の教育研究（学部との連携）



【現在】

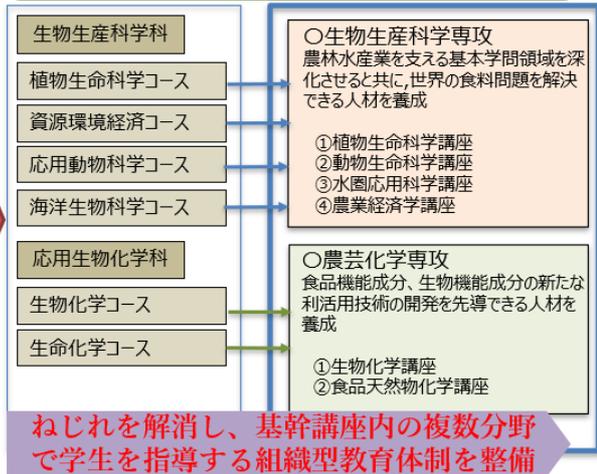
学部は、農学基本分野に基づく2学科6コース。
大学院は、**独創的・学術的・萌芽的基礎研究を重視**
した**分野融合型**専攻組織



【再編後】

農学の**基本学問分野**を基軸とした**専門領域の深化**をめざす組織に再編し、分離融合型先行組織で培った成果をセンター等の教育研究に継承・拡張する

基本学問の教育研究



附属複合生態フィールド教育研究センター

附属先端農学研究センターH21.4～H28.3

分野融合の教育研究

- 東北復興農学センター H26.4～
- 食品の産学連携研究開発拠点H26.3～
- 食と農免疫国際教育研究センターH27.4～
- 生物多様性応用科学センターH28.6～

社会実装・
社会課題解決

組織再編後、東北大学大学院農学研究科では、新たな2専攻で下記の人材を養成いたします。

再編後の養成する人材像



生物生産科学専攻

博士前期 2年の課程

世界の食料問題解決や日本の農林水産業の発展に資するべく、関連する幅広い産業・製造業の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や普及部門、農業関連諸団体の研究・企画・開発部門などにおいて、国際的な視野から研究成果の発信と社会実装できる人材を養成する

博士後期 3年の課程

農林水産業に関連する幅広い産業・製造業の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や普及部門、農業関連諸団体の研究・企画・開発部門などにおいて、国際的視野に立ち、独創的かつ先導的な研究をおこなうことができ、新たなイノベーションを起こすべく、新しい生物産業の創成を世界的水準で推進できる人材を養成する

農芸化学専攻

博士前期 2年の課程

人類の食料や有用物質生産に関する技術革新に貢献すべく、農学における基礎学術分野及び食品製造業や製薬業等の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や産業界において、国際的な視野から研究成果の発信と社会実装できる人材を養成する

博士後期 3年の課程

農学における基礎学術分野及び食品製造業や製薬業等の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や産業界において、国際的視野に立ち、バイオテクノロジーやデータサイエンスの先端技術を活用し新しい生物産業の創成を世界的水準で推進できる人材を養成する

2. 問2 大学院前期課程への進学について、あなたの考えに1番近いものを選んでください。*

1つだけマークしてください。

- 1. ぜひ再編後の大学院前期課程へ進学したい（問3へ進んでください）
- 2. できれば再編後の大学院前期課程へ進学したい（問3へ進んでください）
- 3. 再編後の大学院前期課程への進学に関心がある（問3へ進んでください）
- 4. 再編後の大学院前期課程への進学は希望しない（問4へ進んでください）

3。 問3 再編後の大学院前期課程への進学について、どちらの専攻への進学を希望しますか。

1つだけマークしてください。

- 生物生産科学専攻
- 農芸化学専攻
- 未定又はわからない

4。 問4 授業料や生活費の経済的支援が十分に得られて、就職先の心配もなかったとしたら、あなたは大学院前期課程への進学をどのように考えますか。あなたの考えに一番近いものを選んでください。 *

1つだけマークしてください。

- 1. 大学院前期課程へ進学したい
- 2. できれば大学院前期課程へ進学したい
- 3. あまり大学院前期課程への進学は考えない
- 4. まったく大学院前期課程への進学は考えない

あなたが大学院に進学した場合に身につけたい能力はなんですか。以下の問5～問10の能力をあなたが身につけたいかどうかをお聞かせください。あてはまる程度の数字を回答してください。

5。 問5 自分の専門分野の知識を活用して、国際社会で活躍する能力 *

1つだけマークしてください。

- 1. 大いに身につけたい
- 2. 身につけたい
- 3. あまり身につけたくない
- 4. 全く身につけたくない
- 5. わからない

6。 問6 自分の専門分野の知識を活用して、地域の活性化に貢献する能力*

1つだけマークしてください。

- 1. 大いに身につけたい
- 2. 身につけたい
- 3. あまり身につけたくない
- 4. 全く身につけたくない
- 5. わからない

7。 問7 自分の専門分野の知識を活用して、現代社会の課題を解決する能力*

1つだけマークしてください。

- 1. 大いに身につけたい
- 2. 身につけたい
- 3. あまり身につけたくない
- 4. 全く身につけたくない
- 5. わからない

8。 問8 人文社会科学と自然科学を融合して、課題解決を企画・実践する能力*

1つだけマークしてください。

- 1. 大いに身につけたい
- 2. 身につけたい
- 3. あまり身につけたくない
- 4. 全く身につけたくない
- 5. わからない

9。 問9 自分の専門分野の学術的な発展に貢献できる能力*

1つだけマークしてください。

- 1. 大いに身につけたい
- 2. 身につけたい
- 3. あまり身につけたくない
- 4. 全く身につけたくない
- 5. わからない

10。 問10 自分の専門分野だけでなく幅広い領域に関心を持ち、広い視野から物事を考える能力*

1つだけマークしてください。

- 1. 大いに身につけたい
- 2. 身につけたい
- 3. あまり身につけたくない
- 4. 全く身につけたくない
- 5. わからない

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

大学院教育に関するアンケート

(前期課程学生：1年生)

*必須

東北大学大学院農学研究科では、現在、教育研究組織の再編を検討しています。前期課程1年生のあなたの大学院教育や進学意識について、意見を伺い、今後の計画策定に生かしていきたいと考えています。協力はあくまで任意です。回答は匿名のまま統計処理しますので、あなた個人に迷惑がかかることはありません。協力をお願いします。

2020年8月 農学研究科長

1. 問1 あなたが所属している専攻はどこですか。あてはまる選択肢を1つだけ選んでください。*

1つだけマークしてください。

1. 資源生物科学専攻
2. 応用生命科学専攻
3. 生物産業創成科学専攻

2. 問2 あなたの出身国を教えてください。あてはまる選択肢を1つだけ選んでください。*

1つだけマークしてください。

1. 日本
2. 中国
- その他: _____

- 3。 問3 あなたは、大学院後期課程への進学をどのように考えていますか。あなたの考えに1番近いものを選んでください。 *

1つだけマークしてください。

- 1. ぜひ大学院後期課程に進学したい
- 2. 事情が許せば大学院後期課程に進学したい
- 3. 大学院後期課程への進学に関心がある
- 4. まったく大学院後期課程への進学は考えていない

- 4。 問4 東北大学にはグローバル萩奨学金やドクターサポート制度などの経済的支援があります。授業料や生活費の経済的支援が十分に得られて、就職先の心配もなかったとしたら、あなたは大学院後期課程への進学をどのように考えますか。あなたの考えに一番近いものを選んでください。 *

1つだけマークしてください。

- 1. ぜひ大学院後期課程に進学したい
- 2. 事情が許せば大学院後期課程に進学したい
- 3. 大学院後期課程への進学に関心がある
- 4. まったく大学院後期課程への進学は考えていない

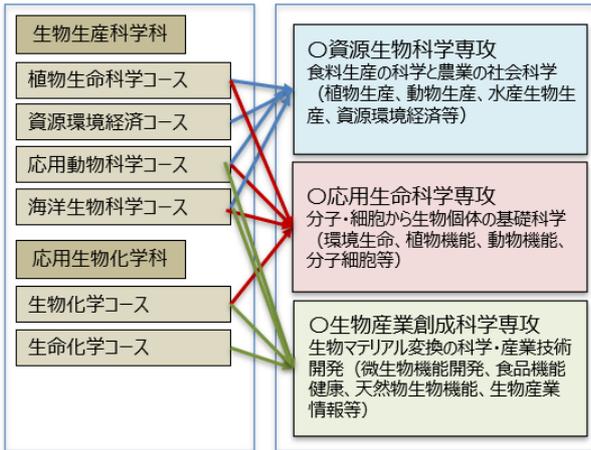
現在、東北大学大学院農学研究科では、従来の3専攻から2専攻へ再編することを計画しています。図を参照して、各専攻への進学について、あてはまる数字を回答してください。

組織再編後の教育研究 (学部との連携)



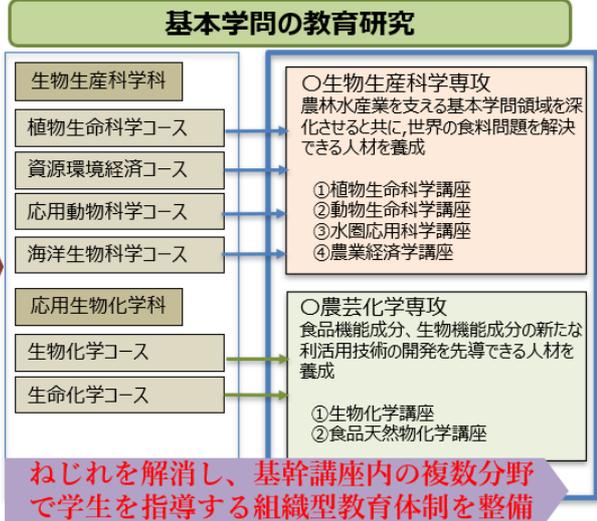
【現在】

学部は、農学基本分野に基づく2学科6コース。
大学院は、**独創的・学術的・萌芽的基礎研究を重視**した**分野融合型**専攻組織



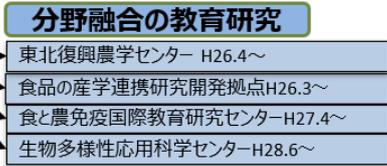
【再編後】

農学の**基本学問分野**を基軸とした**専門領域の深化**をめざす組織に再編し、分離融合型先行組織で培った成果をセンター等の教育研究に継承・拡張する



附属複合生態フィールド教育研究センター

附属先端農学研究センターH21.4~H28.3



社会実装・
社会課題解決

組織再編後、東北大学大学院農学研究科では、新たな2専攻で下記の人材を養成いたします。

再編後の養成する人材像



生物生産科学専攻

博士前期 2年の課程

世界の食料問題解決や日本の農林水産業の発展に資するべく、関連する幅広い産業・製造業の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や普及部門、農業関連諸団体の研究・企画・開発部門などにおいて、国際的な視野から研究成果の発信と社会実装できる人材を養成する

博士後期 3年の課程

農林水産業に関連する幅広い産業・製造業の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や普及部門、農業関連諸団体の研究・企画・開発部門などにおいて、国際的視野に立ち、独創的かつ先導的な研究をおこなうことができ、新たなイノベーションを起こすべく、新しい生物産業の創成を世界的水準で推進できる人材を養成する

農芸化学専攻

博士前期 2年の課程

人類の食料や有用物質生産に関する技術革新に貢献すべく、農学における基礎学術分野及び食品製造業や製薬業等の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や産業界において、国際的な視野から研究成果の発信と社会実装できる人材を養成する

博士後期 3年の課程

農学における基礎学術分野及び食品製造業や製薬業等の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や産業界において、国際的視野に立ち、バイオテクノロジーやデータサイエンスの先端技術を活用し新しい生物産業の創成を世界的水準で推進できる人材を養成する

5. 問5 大学院後期課程への進学について、あなたの考えに1番近いものを選んでください。*

1つだけマークしてください。

1. ぜひ再編後の大学院後期課程へ進学したい（問6へ進んでください）
2. できれば再編後の大学院後期課程へ進学したい（問6へ進んでください）
3. 再編後の大学院後期課程への進学に関心がある（問6へ進んでください）
4. 再編後の大学院後期課程への進学は希望しない（問7へ進んでください）

- 6。 問6 再編後の大学院後期課程への進学について、どちらの専攻への進学を希望しますか。

1つだけマークしてください。

- 生物生産科学専攻
- 農芸化学専攻
- 未定又はわからない

あなたが大学院教育を通して身につけたい能力はどのようなものですか。問7～問12のそれぞれの能力について、あてはまる程度の数字を回答してください。

- 7。 問7 自分の専門分野の知識を活用して、国際社会で活躍する能力*

1つだけマークしてください。

1. 大いに身につけたい
2. 身につけたい
3. あまり身につけたくない
4. 全く身につけたくない
5. わからない

- 8。 問8 自分の専門分野の知識を活用して、地域の活性化に貢献する能力*

1つだけマークしてください。

1. 大いに身につけたい
2. 身につけたい
3. あまり身につけたくない
4. 全く身につけたくない
5. わからない

9。 問9 自分の専門分野の知識を活用して、現代社会の課題を解決する能力*

1つだけマークしてください。

- 1. 大いに身につけたい
- 2. 身につけたい
- 3. あまり身につけたくない
- 4. 全く身につけたくない
- 5. わからない

10。 問10 人文社会科学と自然科学を融合して、課題解決を企画・実践する能力*

1つだけマークしてください。

- 1. 大いに身につけたい
- 2. 身につけたい
- 3. あまり身につけたくない
- 4. 全く身につけたくない
- 5. わからない

11。 問11 自分の専門分野の学術的な発展に貢献できる能力*

1つだけマークしてください。

- 1. 大いに身につけたい
- 2. 身につけたい
- 3. あまり身につけたくない
- 4. 全く身につけたくない
- 5. わからない

12. 問 1 2 自分の専門分野だけでなく幅広い領域に関心を持ち、広い視野から物事を考える能力 *

1つだけマークしてください。

1. 大いに身につけたい
2. 身につけたい
3. あまり身につけたくない
4. 全く身につけたくない
5. わからない

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

大学院教育に関するアンケート

(社会人)

*必須

東北大学大学院農学研究科では、現在、教育研究組織の再編を検討しています。東北大学農学部を卒業し、現在、社会でご活躍中の皆様に大学院（修士、博士）を修了した学生がどのような能力を必要としているかをお聞きし、今後の計画策定に生かしていきたいと考えています。協力はあくまで任意です。回答は匿名のまま統計処理しますので、回答される皆様に迷惑がかかることはありません。協力をお願いします。

2020年9月 東北大学農学研究科長

1。 問1. あなたのご職業をお選びください。 *

1つだけマークしてください。

会社員・役員

団体職員・役員

専門職（大学教員、高等学校教員等）

公務員

その他: _____

2。 問2. あなたのお勤め先の主な業種をお選びください。 *

1つだけマークしてください。

- 農林・水産・建設
- 食料品・飲料等
- 化学・石油製品
- その他製造業
- 運輸・通信・公共事業
- 金融・保険・不動産業
- 教育
- 学術・開発研究機関
- 公務員
- その他: _____

3。 問3. あなたのお勤め先の従業員数は、企業全体としてどのくらいですか。あてはまるものを1つお選びください。 ※「官公庁」、「独立行政法人、公益法人、社団法人、協同組合など」にお勤めの方は従業員数にかかわらず「官公庁」、「独立行政法人、公益法人、社団法人、協同組合など」をお選びください。 *

1つだけマークしてください。

- 1~99人
- 100~499人
- 500~999人
- 1000人以上
- 官公庁
- 独立行政法人、公益法人、社団法人、協同組合等

4. 問4. 従業先でのあなたの役職は次のうち、どれにあてはまりますか。*

1つだけマークしてください。

- 係長相当
- 課長相当
- 部長相当
- 役員相当あるいはそれ以上
- その他: _____

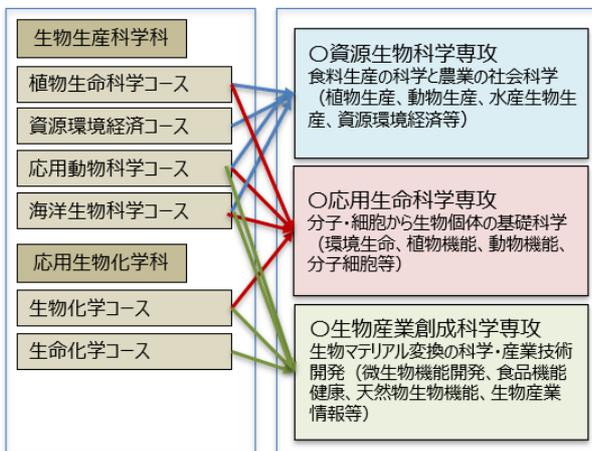
現在、東北大学大学院農学研究科では、従来の3専攻から2専攻へ再編することを計画しています。図を参照して、各専攻への進学について、あてはまる数字を回答してください。

組織再編後の教育研究 (学部との連携)



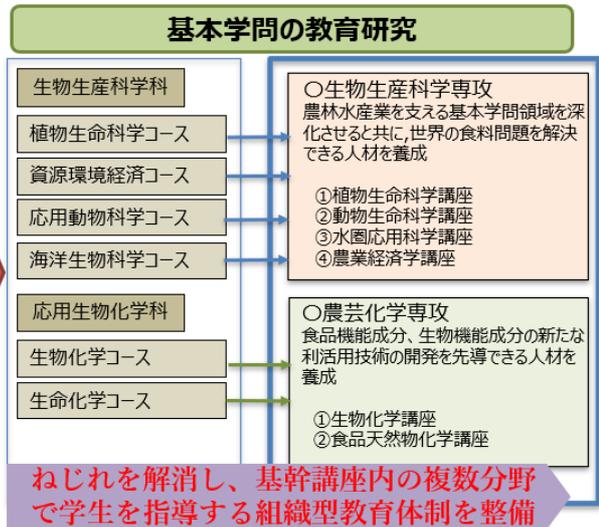
【現在】

学部は、農学基本分野に基づく2学科6コース。
大学院は、**独自の・学術的・萌芽的基礎研究を重視した分野融合型専攻組織**



【再編後】

農学の**基本学問分野**を基軸とした**専門領域の深化**をめざす組織に再編し、分離融合型先行組織で培った成果をセンター等の教育研究に継承・拡張する



附属複合生態フィールド教育研究センター

附属先端農学研究センターH21.4~H28.3

分野融合の教育研究

- 東北復興農学センター H26.4~
- 食品の産学連携研究開発拠点H26.3~
- 食と農免疫国際教育研究センターH27.4~
- 生物多様性応用科学センターH28.6~

社会課題解決
社会実装

組織再編後、東北大学大学院農学研究科では、新たな2専攻で下記の人材を養成いたします。

再編後の養成する人材像



生物生産科学専攻

博士前期
2年の課程

世界の食料問題解決や日本の農林水産業の発展に資するべく、関連する幅広い産業・製造業の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や普及部門、農業関連諸団体の研究・企画・開発部門などにおいて、国際的な視野から研究成果の発信と社会実装できる人材を養成する

博士後期
3年の課程

農林水産業に関連する幅広い産業・製造業の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や普及部門、農業関連諸団体の研究・企画・開発部門などにおいて、国際的視野に立ち、独創的かつ先導的な研究をおこなうことができ、新たなイノベーションを起こすべく、新しい生物産業の創成を世界的水準で推進できる人材を養成する

農芸化学専攻

博士前期
2年の課程

人類の食料や有用物質生産に関する技術革新に貢献すべく、農学における基礎学術分野及び食品製造業や製薬業等の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や産業界において、国際的な視野から研究成果の発信と社会実装できる人材を養成する

博士後期
3年の課程

農学における基礎学術分野及び食品製造業や製薬業等の研究開発部門、国及び地方自治体の試験研究や産業界において、国際的視野に立ち、バイオテクノロジーやデータサイエンスの先端技術を活用し新しい生物産業の創成を世界的水準で推進できる人材を養成する

5. 問5. あなたは博士の学位を持っていますか。 *

1つだけマークしてください。

1.持っている（問8へ進んでください）

2.持っていない（問6へ進んでください）

6。 問6. 再編後の大学院後期課程での博士の学位の取得について、あなたの考えに一番近いものを選んでください。

1つだけマークしてください。

- 1.ぜひ再編後の大学院後期課程で博士の学位を取得したい（問7へ進んでください）
- 2.事情が許せば再編後の大学院後期課程で博士の学位を取得したい（問7へ進んでください）
- 3.再編後の大学院後期課程での博士の学位の取得に関心がある（問7へ進んでください）
- 4.再編後の大学院後期課程で博士の学位を取得するつもりはない（問10へ進んでください）

7。 問7. 再編後の大学院後期課程で博士の学位を取得する場合、どちらの専攻で学ぶことを希望しますか。

1つだけマークしてください。

- 1.生物生産科学専攻
- 2.農芸化学専攻
- 3.未定又はわからない

8。 問8. あなたのお勤め先の若手従業員、同僚等に再編後の大学院後期課程で博士の学位を取得することを勧めたいと思いますか。 *

1つだけマークしてください。

- 1.再編後の大学院後期課程での博士の学位の取得を勧めたい（問9へ進んでください）
- 2.本人が希望すれば再編後の大学院後期課程での博士の学位の取得を勧めたい（問9へ進んでください）
- 3.博士の学位の取得自体を必要と思わないので、勧めるつもりはない（問10へ進んでください）
- 4.再編後の大学院後期課程での博士の学位の取得を勧めるつもりはない（問10へ進んでください）

9. 問9. 再編後の大学院後期課程での博士の学位の取得を勧める場合、どちらの専攻で学ぶことを勧めたいと思いますか。

1つだけマークしてください。

- 1.生物生産科学専攻
- 2.農芸化学専攻
- 3.未定又はわからない

10. 問10. 理科系の大学院の修士課程を修了し、下記の能力を持った学生を、あなたのお勤め先ではどの程度必要としているでしょうか。あてはまるものをそれぞれお選びください。*

1行につき1つだけマークしてください。

	大いに必要である	必要である	あまり必要でない	全く必要でない	わからない
自分の専門分野の知識を活用して、国際社会で活躍する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の知識を活用して、地域の活性化に貢献する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の知識を活用して、現代社会の課題を解決する能力	<input type="radio"/>				
人文社会科学と自然科学を融合して、課題解決を企画・実践する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の学術的な発展に貢献できる能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野だけでなく幅広い領域に関心をもち、広い視野から物事を考える能力	<input type="radio"/>				

11. 問 1 1. 理科系の大学院の博士課程を修了し、下記の能力を持った学生を、あなたのお勤め先ではどの程度必要としているでしょうか。あてはまるものをそれぞれお選びください。*

1行につき1つだけマークしてください。

	大いに必要である	必要である	あまり必要でない	全く必要でない	わからない
自分の専門分野の知識を活用して、国際社会で活躍する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の知識を活用して、地域の活性化に貢献する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の知識を活用して、現代社会の課題を解決する能力	<input type="radio"/>				
人文社会科学と自然科学を融合して、課題解決を企画・実践する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の学術的な発展に貢献できる能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野だけでなく幅広い領域に関心をもち、広い視野から物事を考える能力	<input type="radio"/>				

12. 問12. 理科系の大学院の修士課程を修了し、下記の能力を持った学生を、一般の社会ではどの程度必要としているでしょうか。あなたのご意見としてあてはまるものをそれぞれお選びください。*

1行につき1つだけマークしてください。

	大いに必要である	必要である	あまり必要でない	全く必要でない	わからない
自分の専門分野の知識を活用して、国際社会で活躍する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の知識を活用して、地域の活性化に貢献する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の知識を活用して、現代社会の課題を解決する能力	<input type="radio"/>				
人文社会科学と自然科学を融合して、課題解決を企画・実践する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の学術的な発展に貢献できる能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野だけでなく幅広い領域に関心をもち、広い視野から物事を考える能力	<input type="radio"/>				

13. 問12. 理科系の大学院の博士課程を修了し、下記の能力を持った学生を、一般の社会ではどの程度必要としているのでしょうか。あなたのご意見としてあてはまるものをそれぞれお選びください。*

1行につき1つだけマークしてください。

	大いに必要である	必要である	あまり必要でない	全く必要でない	わからない
自分の専門分野の知識を活用して、国際社会で活躍する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の知識を活用して、地域の活性化に貢献する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の知識を活用して、現代社会の課題を解決する能力	<input type="radio"/>				
人文社会科学と自然科学を融合して、課題解決を企画・実践する能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野の学術的な発展に貢献できる能力	<input type="radio"/>				
自分の専門分野だけでなく幅広い領域に関心を持ち、広い視野から物事を考える能力	<input type="radio"/>				

14. 問13. 理科系の大学院の修士課程を修了した学生が社会人として働く際に、身につけていて欲しい能力について、あなたのお考えをお聞かせください。

15. 問14. 理科系の大学院の博士課程を修了した学生が社会人として働く際に、身につけていて欲しい能力について、あなたのお考えをお聞かせください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

参 考

企業管理職等の求める人材

(自由記述全件)

企業管理職等の求める人材（自由記述全件）

問13. 理科系の大学院の修士課程を修了した学生が社会人として働く際に、身につけていて欲しい能力について、あなたのお考えをお聞かせください。

- ・ 事象を深く観察し、因果関係を明らかにする能力。仮説を構築し、それを検証する能力。実験・実行した結果を振り返り、次のアクションを主体的に計画・推進する能力
- ・ 大学院での研究が全くそのまま生かされる職業に就くことは少なく、研究を通して得た、「何かを考える力」が必要とされる。また小さな組織では、自身の専門性をどのように生かすことができるのか、自ら考える力も必要だと考える。
- ・ 理論的に考えることと、現在のリソースでいかに生産性を高めるかの分析力。
- ・ 就職後は自らの専攻に拘り過ぎず、担当分野の実社会における現状と問題を時間をかけて把握し、自ら小課題を設定し解決に取り組む姿勢が非常に重要。修士2年間で、与えられた課題の現地調査力と関連情報収集力を身に付けられると、就職/博士課程進学どちらにおいても役立つ。
- ・ 英語を話せること。
- ・ 言われたことを言われた通りに実行するだけでなく、自分でも考え行動できる能力、コミュニケーション能力、同僚を統率できるリーダーシップ。
- ・ コミュニケーション能力、人のアドバイスを聞き意見を改善する能力。
- ・ 課題解決のために積極的に情報を収集する能力。
- ・ 自身で考え行動できる能力。
- ・ ①ディスカッションが可能な高い思考能力。②自ら課題設定して解決のために動ける思考力と行動力。③専門分野はもちろん専門分野外の知識も積極的身につけようとする学習意欲。④自分の行動に自主的に期限を決めて遂行できるスケジュール完了能力。
- ・ 自ら情報をまとめ考えを発信し、周囲と協働して目標達成に向けて貢献する意欲と高い専門知識。
- ・ 礼儀。
- ・ 自分で課題を見つけ、解決に向けて努力する能力。また、その解決策をまとめる能力。
- ・ 自分の専門分野に軸足を置きつつも、ジェネラリストとして、社内外の幅広い問題に対して、柔軟性を持って取り組むことの出来る発想力とコミュニケーション能力。
- ・ 文章を書く能力（まずは日本語）。エクセルを使った分析スキル（ネットで調べて自身で成長できる）。1分野について2年間やりきったという自信を身に付けて欲しい。また、その分野の経験のない人に対してわかりやすく説明できるよう努力してほしい。
- ・ 先行研究に関する調査能力。
- ・ データ分析（基本統計学）、基本英語力、粘り強さ。
- ・ 研究成果を会社の利益につなげられる能力、コミュニケーション力・社交性。

- ・現象や仕事の中での課題を抽出し検証できる能力。1つの事柄ではなく、総合的に判断する必要があるため。課題の中で、どの項目が影響力が大きい意識してほしい。会社の場合は部署を問わず情報を集め、実行プランを立て実行してほしい。考え抜いて粘り強く課題を解決しようとする気概が大事。
- ・研究職として社会でも活躍するなら、一般消費者の目線でどんな課題を解決できるか、その解決手段としてのサービスや製品でどんなビジネスに結び付けるかといった仮説をたて、検証実行していく能力が欲しい。
- ・専門性、グローバルに働ける能力。
- ・理論的な説明能力、コミュニケーション力。
- ・主体性、自分で考える力。
- ・自分で課題を見だし、必要な情報を的確に入手し、課題解決によるメリットを魅力的に説明でき、最後まで諦めずにやり遂げる能力。
- ・専門知識・技術、コミュニケーション能力、英会話を含む英語能力。
- ・専門と専門の狭間で融合領域を生み出せる柔軟性・創造性・バイタリティ。
- ・問題解決能力が最も大切と考えます。
- ・最近海外の人とのコミュニケーションを必要とする機会が増えているため、英語力が最低限必要となってきている。専門知識としては、最低限の理系の基本があれば、大きな問題はない。
- ・大学院で学んだ技術的な面（例えばHPLC分析が出来る、等）は企業に入ってから派遣社員でも数日で取得できる程度の技術でありアピールにはなりません。会社が求めているのは、自分の頭で考えて、解決策を見出し、周囲と協働して課題を解決する力だと思います。修士課程において、普遍的な力が身につく教育に力をいれて頂くのが良いと思います。英語力も必須で、読み書きだけでなく、論理的な会話力も必要とされます。
- ・科学に真摯に取り組んだ経験、専門分野のベースになっている科学的知識・知見の活用能力、肯定感をもった学生時代の経験・取組。
- ・コミュニケーション力、協調性、多様性。
- ・科学的根拠に基づいて自分でプロトコルを計画、実施していく能力。
- ・最新の技術や知見を自分以外のリソースから導入し融合させてオリジナルを創出する能力。
- ・それまで取り組んでいた専門分野を中心とした理系知識を活かしつつ、所属する企業が関わっていく産業に関して、幅広い興味関心が持てる、情報収集・情報選択できる能力が必要と考える。
- ・自らの専門分野を現代社会の課題解決や発展のために活かせる能力。
- ・課題を見つけ、考え、解決する力を身につけてほしい。課題を見つけるためには幅広い知識が必要で、いわゆる理系科目だけでなく、文系科目や社会、経済の知識も2。理系科目だけ教えてもダメで、これは教授陣の意識を変える必要がある。考える力は専門については東北大の場合は一定の水準にあると考える。解決する力については周りの人を巻き込む力が2。他大学、他学部と連携する研究テーマ等を一定割合で行う必要がある。

- ・専攻した知識を生かすことのみならず、可能性の1つとして多くの分野に興味、関心を持って欲しい。
- ・英語、自分で考えて実験を組み立て成果を出す力。
- ・課題を見出す能力。
- ・自分の専門以外の分野に関する幅広く興味関心を持ち、情報収集し自分としての意見、見識をまとめる能力。
- ・忍耐力、素直、柔軟性、積極性。
- ・幅広い領域に関心を持ち広い視野から物事を考える能力、コミュニケーション能力、バイタリテイ、実験の進め方（仮説立案→実施→評価→次のアクション）。
- ・研究者としての基礎的能力（試験の組み立て、統計等）と、周囲と連携して成果を出していくコミュニケーション力
- ・自分の頭で考え行動する力
- ・私が勤める会社では、市町村や官公庁、民間企業のニーズを踏まえ、顧客にとって分かりやすい提案をすることが求められます。このため、以下の能力を身に付けてほしいと感じています。①文書作成（論理構成）能力、②コミュニケーション（調整力）能力。例えば、当時、研究室に在籍していた際には、各人の研究の背景を知っているゼミ内での発表が多かったですが、背景を知らない研究室間の発表交流等があるとより、上記の能力が鍛えられるのではないかと思います。
- ・自分で既存技術を把握して研究すべき領域をきめて実験し、一報でも論文をまとめられる能力。
- ・マネジメント能力。
- ・専門分野の技術・知識を網羅的に理解・駆使して問題を解決する能力。
- ・論理的思考、探究心、言語力。
- ・協調性と誠実さ。
- ・創造力。
- ・自分の頭で考える能力。
- ・広い視野を持ち、自ら社会の問題を発見し、その根本的な解決を考えられる能力。大学院で学んだ専門領域に捕らわれず、自ら設定した問題解決に必要な能力を身に付けることができる積極性と柔軟性（そのための基礎能力も必要）。科学的な論理展開力とコミュニケーション能力。
- ・専門分野の知識・技術に加え、研究デザインや解析の基本能力。文章作成能力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、社会実装能力など。
- ・専門分野に関わらず、広く社会や科学に関心を持ち、課題を見出したり、課題解決に向けて考え抜く姿勢と力。
- ・専門分野にとらわれない広い知識とコミュニケーション力・交渉力。
- ・対人関係スキル、説明能力。
- ・広い視野で論理的な思考が出来、自分の専門外の分野と融合して、世の中に求められる新たな価値の創造が出来ること。

- ・専門分野の技術と知識、社会常識。
- ・現状把握能力（自分の専門性の何が足りていて何が足りないのか）と課題解決能力（課題に対して専門性が生かせるのか、生かせない場合どのようなプロセスで解決が可能か）。
- ・専門性を有しているが、その場その場に必要能力を得られる柔軟性も必要。専門性を応用できる能力。コミュニケーション能力。
- ・指導者の助言を受けながら研究テーマを立案し、方法を考えて実行する能力。
- ・”自ら”深く思考し、提案し、それを自分で実践しようとする能力。
- ・専門分野を分かりやすく伝達できるスキル、バランス感覚。
- ・自分の専門分野について、その社会的な意義を、一般人に分かりやすく説明できる能力。会話する相手の専門分野について、その社会的な意義を理解する能力。
- ・自発的コミュニケーション力、多様な好奇心・危機察知力。
- ・物事を考える力。論理的思考、クリティカルシンキングができる力があると、どの分野でもある程度活躍できる。自身が面接官の際にみていたのは、こちらの質問に関して、自分がどう考え、どう表現できるかを見ていた。また、自身の研究が社会課題の解決にどう役立つのか、何に使えるのかをしっかりと見据えているか。
- ・創造性と企画力。
- ・会社では大学時代に学ばなかったことも含め様々な知識が必要とされるので、幅広い知識を吸収し実践しようとする姿勢が必要と思います。
- ・専門知識を蓄えながらも、幅広い領域の知識も得て柔軟に対応できる能力。
- ・一般教養。
- ・自分のした仕事を批判的にチェックして修正する能力
- ・専門的な技術よりも、研究に対する姿勢、研究というものの考え方、課題を自ら見出し解決できる能力。なぜならば、技術は時代とともに激しく変化するし、社会に出てからも身に付けることが可能である。しかし、研究に対する姿勢や考え方、課題を解決するクセのようなものは、時間のある、しかも頭の柔らかい学生時代に徹底的に刷り込まなければ、社会に出てからは難しい。
- ・コミュニケーション能力。
- ・語学（特に英語）、体力、倫理。
- ・自分の専門分野のみならず、様々な分野に積極的に関わり、主体的に取り組む能力。
- ・地域に寄り添い、専門性を生かして課題解決に導く能力。
- ・物事を科学的に考え、解決策を提示する力。
- ・諸課題を論理的に認識できる能力。
- ・専門分野だけでなく、自然科学全般（生物学、物理学、化学、数学など）について、少なくとも高校卒業程度の基礎知識を十分に身につけていること。理系人材として社会の問題解決に当たる

ためには、特定分野だけでなく理系全般について理解していることが極めて有益。加えて、人文社会分野についても、基礎的な知識や関心を有していることも必要。

- 自分の専門分野について、深くなくとも構わないので、広い範囲で知識を身に付けてほしい。修士論文に載っている実験しかできないでは困る。
- コミュニケーション能力、問題解決能力、情報処理能力。
- 社会性。
- 英語、ヒアリング、スピーキング、読解力。
- コミュニケーション能力と自分の言動が周囲に与える影響についての想像力。
- 柔軟な適応力。
- 言語による説明能力、コミュニケーション能力。
- 広い視野を持ち、自身が持つ知識や技術を結びつけて思考、判断して実践する力。
- 上記のすべての能力を有する必要がある。
- 問題把握能力、困難な課題にチャレンジする精神力。
- 大学院での専門分野に限定されることなく、もう少し幅広い領域の業務でも抵抗なく受け入れ、自ら勉強して実行する能力。学術的に専門分野を追求するよりは、社会実装を見据えた成果に向けて行動できる能力。
- プレゼンテーション、実験データの統計解析。
- 修士修了では専門分野にこだわらずにいろいろなことに対応していくことが重要。
- 幅広い基礎知識、プログラミングや統計学や基礎的語学も重要。
- 業務内容を定量的に表現する能力(例、「たくさんの」、「BよりAが大きいので」などではなく、「Aに対してBが0.3低値であり、統計解析の結果有意な差が認められた」など)。
- 積極性。コミュニケーション能力。
- 何が社会もしくは自分に必要なのかを自分で考え行動する能力。
- コミュニケーション能力。多様な人と有意義にディスカッションできる能力。
- 論理的思考、コミュニケーションスキル、相手に簡潔かつ分かり易く説明する能力(プレゼン力?)、共感力、他者を巻き込む力。
- 情報収集能力・対人の礼儀作法。
- 専攻分野についての高い基礎的レベルと、周辺領域への関心を有している。新たなテーマについて柔軟に対応でき、自らのアイデアを実践的に試行できる。またある程度の協調性を有し、チームとして機能できることは大事。英語でのコミュニケーションを磨ける素地が形成されている。
- 課題を解決するための基礎(対話、文献調査、企画立案)。
- コミュニケーション能力。
- 他人の意見をきく力。
- ロジックの組み方だと思います。

- ・当自治体の研究職給料表では、修士課程修了をもって基本給が1号アップします。修士課程2年を社会人経験1年分としてカウントするという見方もでき、自治体農業研究所としては、即戦力としての能力が期待されます。修士の場合、必ずしも専門分野を考慮した配属とならない場合もあるため、稚拙でもかまわないので、与えられた研究課題について、自ら仮説をたててそれを検証しようとする基本姿勢を積極的に展開できることが期待されます。このことにより、人材の能力の把握及び効果的なOJTの展開が可能になると考えます。
- ・与えられた職務に対して自ら情報収集して課題を抽出する能力。
- ・コミュニケーション能力、チャレンジ精神、協調性、課題発見力。
- ・背景、目的、方法、結果、考察を論述できる。試験計画を設計できる。統計解析ができる。その分野の基本的な実験手法を習得している。自分の意見を持ちながらも、それに固執せず他者の意見を受け入れられる。
- ・自らの専門分野とこれを取り巻く諸事項を、大所高所から俯瞰できる能力。
- ・自ら課題を発掘し、他者と協力しながら論理的かつ合理的な解決策を見だし、周囲に理解してもらえるように説明出来る能力。
- ・情報収集力、分析力、プレゼン力。
- ・山積する食料・農業・農村の問題に対し、修士課程において、客観的なデータに基づいて分析する能力を身に着け、その上で問題解決に向けた具体的な提言ができる能力をもつ人材が育成されることを期待します。
- ・修士課程以前のリベラルアーツ教育の充実による一般的な社会問題への認識能力。その後、修士課程での専門分野の概要の理解と応用能力。

問14. 博士課程を修了した学生が社会人として働く際に、身につけていて欲しい能力について、あなたのお考えをお聞かせください。

- ・専門領域に対して、他社と差別化された知見・技能。その専門領域に対して探求心を持ち続け、徹底的にかつ、飽くなき挑戦をし続ける能力。
- ・民間企業においては、自身の専門分野のみに関心を向けず、周りの社員の仕事を理解し、自分の仕事との協調がとれるように、協力する力が必要とされる。
- ・分析力と、一般の人に向けて専門的な物事をわかりやすく伝える力。
- ・就職後すぐに専攻分野に従事する/しないに関わらず、担当業務の問題抽出/課題設定する前向きな姿勢を示すことの重要性を、博士課程で叩き込んでほしい。早々に諦めて自分の希望する方面に転職する選択肢はもちろんあるが、私の所属組織の採用側にはそれを受け入れる人的/時間的余裕が失われており、後進の採用にも影響する。博士修了者には、「専門外」と思われる分野にも飛び込み、担当業務の中で自分の専門分野を絡めて新たな発展を企てる大胆さが必要と思う。地方の実社会では旧来の仕組、考え方から脱することが出来ずに先細りの道を歩んでいることが多いが、10年かけてでも新たな方向性を示すことが出来る粘り強い人材を是非育ててほしい。
- ・英語を話せること
- ・言われたことを言われた通りに実行するだけでなく、自分でも考え行動できる能力、コミュニケーション能力、同僚を統率できるリーダーシップ、企画発案能力、粘り強く物事をやりとげられる遂行能力。
- ・コミュニケーション能力、人のアドバイスを聞き意見を改善する能力。
- ・課題解決のための方策を自ら立案する能力。
- ・問13の能力に加え国際的に行動できること
- ・①ディスカッションが可能な高い思考能力、②自ら課題設定して解決のために動ける思考力と行動力、③専門分野はもちろん専門分野外の知識も積極的身につけようとする学習意欲、④自分の行動に自主的に期限を決めて遂行できるスケジュール完了能力、⑤産官学連携等のコネクション
- ・国際的にも認められる高い専門能力と情報発信能力。
- ・博士課程で、何か身につけていると思いがらない能力。
- ・礼儀。
- ・課題の解決を最新の科学技術も踏まえへアプローチできる能力。新たな知見（技術）を論文や学会発表等の方法により、一般社会に還元できる能力。
- ・高い専門性に裏打ちされた知識と、その知識を社会に活かすための応用力。
- ・修士で身につけて欲しい能力（上述）、自分で仮説を立て、実験系を作り、まとめるまでをやり抜く力。自分の仮説に対し、外部の論文等を参照し、妥当性を検証できる力。卒業後も活用可能な研究職の人脈。
- ・プレゼンテーション能力。

- ・専門知識、要約力（サマリー）、データ分析（基本統計学）、基本英語力、粘り強さ。
- ・研究成果を会社の利益につなげられる能力、コミュニケーション力・社交性。
- ・メーカーは営利目的であることを意識して開発にあたってほしい。お互いの部署の立場を考えながら、この説明なら納得できると説得できる能力。全てが必ずしもそうならないので、押し付けすぎず相手に合わせて納得や妥協させられる説明能力。
- ・課題解決に加え、多くの人々が気づいていない潜在的な課題を見つける能力が必要。そして、潜在的な社会課題を解決する技術や製品、サービスを提供するために必要な研究を自らが創造する能力が欲しい。
- ・専門性、グローバルに働ける能力。
- ・専門知識に基づく新たな提案・企画力。
- ・コミュニケーション力。
- ・修士課程卒の能力に加え、チームリーダーとしてメンバーをまとめ、引っ張る能力。
- ・専門知識・技術、コミュニケーション能力、英会話を含む英語能力。
- ・深い専門性だけでなく教養や世間一般の感覚を兼ね備えた人材。
- ・問題解決能力が最も大切と考えます。
- ・研究分野として考えると即戦力となる専門知識が必要となる。英語能力，コミュニケーション能力も即戦力として期待されると思う。
- ・専門性が100%合致することはほぼないと思います。課題を見出して、仮説を立てて、検証して、解決するということを粘り強く行う力が求められると思います。また、会社に入っても学ぶ姿勢を継続し、自ら深掘りする姿勢が求められていると思います。英語力も必須で、読み書きだけでなく、論理的な会話力も必要とされます。
- ・専門的な知識をビジネスに活かす能力、専門知識を言語として幅広くコミュニケーションできる能力。
- ・リーダーシップ、判断力、先見力。
- ・広い視野で周囲と強調して進める「社会性」、「コミュニケーション能力」。
- ・組織や社会が必要としていることを察知し、直近と将来のゴール両方を目指せる能力。
- ・それまで取り組んでいた専門分野を中心とした理系知識を活かしつつ、所属する企業が関わっていく産業に関して、幅広い興味関心が持てる、情報収集・情報選択できる能力が必要と考える。
- ・自らの専門分野を現代社会の課題解決や発展のために活かせる能力。
- ・問13に加え、自分の専門と他分野をつなげる能力が2。博士論文の基準に、似たような研究だけではダメで、他分野とコラボした研究テーマを必ず入れるようにするべきである。また、研究の延長上に大きなビジョンを描ける能力があると非常に魅力的である。点で考えるのではなく、立体的に物事を考えられる人材が2。
- ・自ら課題を見つけ、解決する能力は必須であると考えます。研究開発職では否応なく即戦力として捉えられるので、精神的な強さも必要と思われる。

- ・起業する(独立する)力。
- ・リベラルアーツのような教養の上に、専門的な知識を成り立たせてほしいです。
- ・課題を見出す能力。
- ・自身の専門分野の知識を社会に広く還元する方法を考え出す能力。
- ・行動力、発信力。
- ・幅広い領域に関心を持ち広い視野から物事を考える能力、コミュニケーション能力、バイタリティ、実験の進め方(仮説立案→実施→評価→次のアクション)。
- ・独自の専門知識と周囲と連携して成果を出していくコミュニケーション力。
- ・自分の頭で考え行動し、課題解決ができる能力。
- ・①文書作成(論理構成)能力。②コミュニケーション(調整力)能力。③新規ビジネスを創出するもしくは既存ビジネスを拡大するような発想・論理構成能力。
- ・どんどん外に出て情報を得て、効率的に良い研究をすすめる能力
- ・マネジメント能力。
- ・学術レベルの専門技術・知識を駆使して問題を解決する能力。
- ・論理的思考、探究心、調査力、言語力。
- ・同上(問13同様)。
- ・課題発見力。
- ・自らの専門的な知識にとらわれず様々な知識を吸収しようとする能力。
- ・広い視野を持ち、自ら社会の問題を発見し、その根本的な解決をリーダーシップを発揮して進める能力。自分の専門性を活かし、専門領域以外の研究者などとの連携を積極的に進めることができる知識と技術、コミュニケーション力。
- ・修士課程を修了した学生の能力に加え、海外を踏めた幅広い科学的知識、研究における優れた実験能力、論文作成能力、探求心。
- ・特に専門分野の知見から、データを深く解析しながら社会の課題解決を実行し、他者へも発信できる能力。
- ・新たな技術を社会実装するための展開力、他分野への活用を可能にする発想力。
- ・対人関係スキル、説明能力。
- ・広い視野で論理的な思考が出来、自分の専門分野では、短長期の両面で世の中に求められる唯一無二の新たな価値の創造が出来ること。
- ・修士卒より高度な専門分野の技術と知識、社会常識。
- ・基本的には問13の回答と同じ。ただし、博士課程を修了した人はさらに高度な知識が求められるし、勤めてからも情報収集能力やそれを自分の力にする能力がより欠かせないと思う。
- ・即戦力になり得る高い専門性。
- ・解決すべき課題を自分で発見し研究テーマを立案、実行する能力。

- ・修士+2年に匹敵する高い教養と深い知識とそれに基づく深い洞察が行える能力。自分の頭でオリジナルな提案を行い、その実践のための具体策を提案できる能力。
- ・深い洞察をもとに異なる視点からの解析を行い、周囲が理解できるように解説できる力。
- ・自分の専門分野について、その経済的な価値を定量的に説明できる能力。社会から提起された科学的な課題について、その解決案を見出だし、解決のための研究活動を起案し、完遂できる能力。
- ・自発的コミュニケーション力、多様な好奇心・危機察知力、社会適合力・傾聴力。
- ・上記修士で期待する力に加え、専門性の強さ（要は3~5年やることによる、知識の蓄積と強みの把握。社会に出てその専門性が必ずしも使えるわけではないので）、広い視野、ネットワークを作れる力。
- ・指導力とマネジメント力。
- ・問13と同じです。
- ・専門知識を蓄えながらも、幅広い領域の知識も得て柔軟に対応できる能力。
- ・自分の専門性を社会のなかで売る能力、もしくは役立てる能力。
- ・修士課程同様、研究に対する姿勢、研究というものの考え方、課題を自ら見出し解決できる能力。それに加え、自身の研究をマネジメントする能力と研究チームをマネジメントする能力。現代の研究では個人プレーでの研究は難しく、研究チームをいかにマネジメントするかが重要になってくる。そのために、人的なコミュニケーション能力と情報発信の能力、海外・国内問わず幅広い知識と視点を持ってほしい。
- ・コミュニケーション能力。
- ・リーダーシップ、倫理。
- ・自分の専門分野について国際的な学会・シンポジウムなどの場での発表や学術論文の投稿を通じて、国際的な場でコミュニケーションを取ることが出来る能力。
- ・専門性を生かし、国際的な視野に立って課題解決に導く能力。
- ・第一線の科学者として自分の研究成果を国際的に発信する能力。
- ・諸課題を論理的効率的に解決できる能力。
- ・修士に期待する上記の能力、博士として当然期待される専門分野の深い知識のほか、人文社会学についても、十分な修養を積んでいて欲しい。自然科学がますます一般人には理解困難なものに発展していく中で、それを活用する人材には、哲学的な素養もないと、技術と社会がますます乖離し、社会が危険な状態になりかねない。
- ・自分の専門分野について、深くなくとも構わないので、広い範囲で知識を身に付けてほしい。これに加えて、博士論文になった狭義の専門分野は、先生方と比べても「自分が上」と言い切れるようにしっかり勉強してほしい。
- ・コミュニケーション能力、問題解決能力、課題提案能力、研究遂行能力、情報処理能力。
- ・社会性。

- ・英語 ヒアリング スピーキング 読解力。
- ・コミュニケーション能力と一般常識、想像力。
- ・実力のほかに良い意味での大雑把さ。
- ・広い視野を持ち、自身が持つ高度に専門的な知識や技術を結びつけて思考、判断して実践する力。
- ・上記のすべての能力を有する必要がある。
- ・専門的知識、困難な課題にチャレンジする精神力。
- ・学術的に専門分野を追求することに加え、社会実装を見据えた成果に向けて行動できる能力。研究開発業務においては、学部・修士課程卒で入ってきた後輩に対する研究指導能力。
- ・英語で論文が書けるスキル、学術論文の査読ができるスキル。
- ・専門分野を活かしつつ、他分野との連携を積極的に行うことが重要。
- ・英語全般、新しい研究（プログラミング、統計、ソフトウェア）。
- ・業務遂行する際の拠り所として、学術論文を挙げられる、かつ全く分からない人に、1回の説明で論文の内容を30%程度理解させることができるプレゼン能力。どのような小さい内容でも学術論文として世に問うことができる能力。
- ・自分の考えで研究計画を組み立てられる能力。
- ・社会貢献をするためのプロジェクトを立案、実行する能力。
- ・コミュニケーション能力。他人の話に耳を傾ける能力。専門の中に閉じこもらない好奇心と適応力。
- ・一目置かれるような知識、論理的思考、コミュニケーションスキル、相手に簡潔かつ分かり易く説明する能力（プレゼン力？）、共感力、他者を巻き込む力。
- ・自ら考えて動き、人の話に耳を傾ける謙虚さ
- ・専攻分野についての深い思考力と技術力を有する。一方で、専攻分野でのセンスを、他の分野へも適用できる柔軟性は必須。また後輩人材に対して、ある程度の指導力、あるいは何らかのいい意味でのインパクトを与え得る。もちろん、英語でのコミュニケーションは実践的なレベルであることが望ましい。
- ・新たな調査や事業の企画立案、現行の手法のブラッシュアップなど新たな視点での考えを行動に移す力。
- ・余力、科学的知識、一般教養、マナー、コミュニケーション能力。
- ・要領の良さではなく、解決に向けて物事を着実に前に進めようとする思考。説得力のある説明の力。
- ・試験計画だと思います。
- ・博士課程修了者の本採用は、従来、選考採用による場合が大半で、直近でも、平成の初期まで遡って、生物工学関連分野での選考採用がある程度にとどまっています。博士課程修了者は、採用直後から専門分野での高度な問題解決能力が期待されます。一方、専門分野の殻に閉じこもるき

らいもあり、自治体職員としては、関連分野や社会経済学的な側面からの視点も含めて、問題の発掘や解決を図る姿勢も期待されます。また、現在、当研究所より1名の研究員を貴大学院に入学させているところであり、社会人大学院生への自然科学の知識や学術的なスキルの適切な指導についてよろしくお願い申し上げます。

- ・論理的思考力を新たな分野に応用する能力。
- ・コミュニケーション能力、協調性、問題解決能力。
- ・論文を執筆できる。入社後まもなくその分野で指導者側に回るができる。自分の意見を持ちながらも、それに固執せず他者の意見を受け入れられる。
- ・上記に加え、英語力。
- ・高度な課題につき、広域的かつ深い視点から専門家としての解決策を見だし、説得力のあるプレゼンを日本語及び英語で出来る能力。
- ・幅広い教養と、オンリーワンの専門分野。
- ・上記問13で記載した能力を専門的にさらに深め、その研究成果を国際レベルで発信し推進していく能力をもつ人材が育成されることを期待します。
- ・専門分野における調査研究、応用の即戦力。